



県市町村による青少年劇場

■10月9日、市民会館で鹿児島県市町村による青少年劇場が開催されました。市内小学校の5・6年生約300名は、劇団野ばらによる劇「山の風から聞いた話」を鑑賞しました。



小学校陸上記録会

■10月15日、塩浜運動場で開催され、各小学校の5・6年生が参加しました。今年度は新記録まであとわずかという競技も複数ありました。



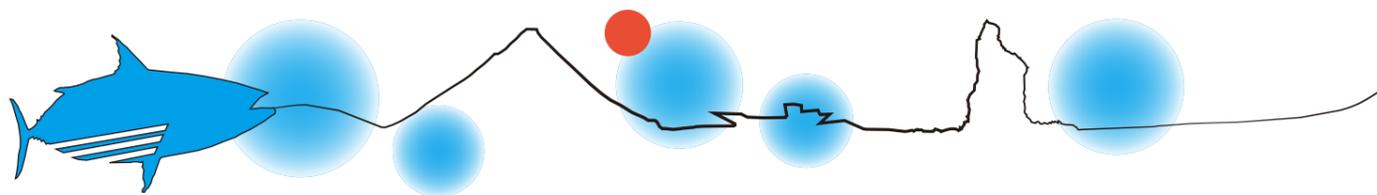
枕崎シルバー人材センターがボランティア清掃

■10月はシルバー人材センター事業普及促進月間でした。10月16日には、火之神公園と台場公園でボランティア清掃が行われ、台風で打ち上げられた石の撤去や流木等のゴミの回収作業が実施されました。



自分たちで植えたさつまいもを収穫

■10月26日、妙見保育園の園児が5月に妙見町の畑に植えたさつまいもを収穫しました。収穫したさつまいもは、おやつや給食の時間に食べたり、お土産として家に持ち帰りました。



大きくなって、戻って来てね ～立神小の児童がカサゴの稚魚を放流

9月29日、枕崎漁港でカサゴの稚魚放流が行われ、立神小学校の4年生43名が参加しました。

今回の放流は、漁礁の回収事業を実施した森建設(鹿屋市)の社会貢献活動として実施されたもので、かごしま豊かな海づくり協会の協力のもと、生後9カ月、約7センチのカサゴの稚魚2,500匹が次々と放流されました。

同校の台場光希さんは「カサゴの大きさや泳ぐスピードが1匹1匹違うということを感じて初めて分かった。元気に大きくなってほしい」と話してくれました。



▲放流されたカサゴの稚魚



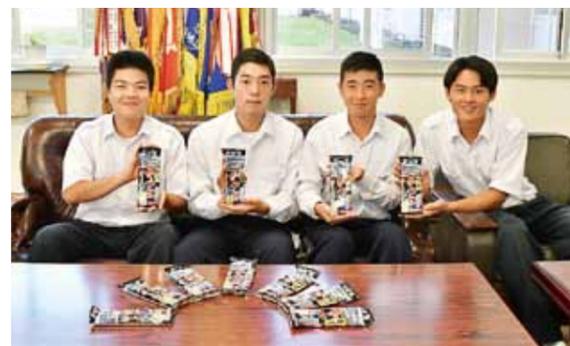
写真は提供していただいたものを掲載しています。

100歳おめでとうございます ～揚野フミさん(日之出町)

揚野フミさんが10月10日、めでたく100歳の誕生日を迎え、同日、市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

揚野さんは本市出身で長年、漁協食堂の調理師として働き、1人の子供に恵まれました。長生きの秘訣は、「健康に気を遣い、朝と夜にコップ1杯の水を飲むこと」と話します。

これからも元気で長生きしてください。



水高生開発のラーメンが製品に ～株式会社ヒガシマルが水産高校にかつおラーメンを寄贈

鹿児島水産高校の食品工学科の生徒と株式会社ヒガシマルが共同で開発した乾麺タイプの「枕崎かつおラーメン」が完成し、10月2日に株式会社ヒガシマルから同校に約800食分寄贈されました。

今回寄贈されたかつおラーメンは、同校のSPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)事業の一つである「地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発」として開発が進められたもので、食品工学科の藤元優真さん(3年)は、「こんな風になるとは思っていなかったのでびっくりしているが、みんなと作成できて楽しかった」と感想を話しました。

枕崎かつおラーメンは、市内で実施される防災訓練で参加者に配布予定のほか、枕崎お魚センターや南薩地域地場産業振興センターなどでも販売されています。



▲完成した枕崎かつおラーメン



市役所通りに不思議な地下道が出現!? ～市役所通り会がトリックアートを整備

10月13日、市役所通りに整備されていたトリックアートが完成しました。

今回整備されたトリックアートは、枕崎市通り会連合会のまちおこし企画の一環で、市役所通り会がこれまで整備してきたアート通りをさらに進化させようと整備したものです。

制作に携わった市役所通り会の桑原茂樹さんは、「市役所通りがみんなに親しまれる通りになれば」と話しました。

旬のお便り 地元生産者応援企画 枕崎で生産される旬の農産物を紹介します!



さつまいも

さつまいもは1600年頃、中国から日本に伝わったと言われていいます。琉球から薩摩に伝わったことから「さつまいも」と呼ばれ、中国から来たものも「からいも」、中国での名前と同じく「かんしょ」とも呼ばれています。

さつまいもには、多くの種類があり、それぞれの芋の特徴によって、さまざまな加工品の原料となります。例えば、「コガネセンガン」はでんぷん量が多く、たくさん収穫することができるため、焼酎の原料として使われます。

「安納芋」は水分が多く、糖度が高いため、スイーツの原料として使われます。

さつまいもは収穫後、低温多湿の条件の下、一定期間貯蔵することででんぷんが糖に変わります。さらに、火を通すことで、甘さが増すという特徴があります。

おすすめ料理 焼いも

さつまいもの定番料理です。ねっとりとした甘さは「安納芋」や「紅はるか」、程よい甘さでしっとりとした食感は「シルクスイート」で味わうことができます。



▲シルクスイート